

地質ニュース

昭和 57 年 1 月 第 329 号 1982

年頭所感	陶山淳治	6
地質調査所 創立100周年にあたって	沢俊明	7
温度変化法による鉱物・ガラスの屈折率測定方法	遠藤秀典	8
共水性ガスとその鉱床(その8)	福田理	13
モンゴルとその螢石鉱床①	岸本文男	25
貝類分布から海流や海況を推理する	石山尚 小滝一三	35
中華人民共和国の鉱山を訪ねて	小村幸二郎	42
経済地理メモ—社会主義国編— モンゴル⑧	資料情報係	53
地質標本館だより		
開館1年をふり返って	鈴木泰輔	55
亀山 KAMEYAMA	宮村学 吉田史郎 山田直利 佐藤生旭 寒川旭	61
口 絵 阿寺断層の発掘調査	山崎晴雄 佃井義 正井義郎	

編集 地質調査所

表紙の写真

阿寺断層の発掘調査

阿寺断層は 中部地方を北西・南東方向に延長 80km にわたって貫くわが国の代表的な活断層のひとつである。地質調査所では 昭和56年10月に 阿寺断層通過地域のほぼ中央にあたる岐阜県恵那郡付知町で同断層を発掘調査した。

活断層の発掘調査とは 断層を横切って調査用の溝(トレンチ)を掘り その断面に見られる断層運動による地層の変位を詳しく観察して断層活動の時期や周期などを知るために実施するもので これによって個々の活断層の危険度を判定し長期的な地震予知に役立てようとするものである。

今回の発掘調査は 一昨年(昭和56年)の丹那断層の発掘調査についで地質調査所による第2回目の調査であり 前回とはほぼ同じ規模の長さ 25m 巾 8m 深さ 6m (最深部) のトレンチが掘られた。その壁面には 表紙写真に示した 沖積世に堆積した崖錐堆積物(左側)が濃飛流紋岩及び段丘礫層(右側)と接する 明瞭な断層が認められた。現在 地層の年代測定等を実施中であり その結果の判明する今夏には 阿寺断層の最近の地質時代における活動の一部が明らかになることであろう。

(文 山崎晴雄) (写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社